

せつ き 石 器 2 (縄文時代)

大野城市教育委員会



1. 旧石器時代から縄文時代へ

今から約1万3千年前、旧石器時代から縄文時代への移り変わりは、自然環境の変化によって引き起こされました。この時期は、氷河時代も終わりに近づき次第に気候が温暖化していった時代です。気候の温暖化にともない海面は上昇し、陸地にはクリやクルミ・ドングリなどを実らせる木々が多く立ち並び、その中をシカ・イノシシなどがすみかとなりました。また、海岸部では貝や魚が多く捕れるようになりました。このような急激な環境変化の中であって、人々は生活環境の変化に対応した道具を作り、あるいは改良していったのです。それに代表されるのが縄文式土器の出現であり新しい石器の出現と石器の変化でした。

縄文時代の石器は、旧石器時代の石器とくらべるとその内容はかなり異なったものと言えるでしょう。中でも矢じりの登場はその良い例といえます。矢じりは、その狩猟対象が、変化したことを示すものです。環境の変化によってナウマン象やマンモスなどの大型動物がいなくなり、シカやイノシシが多く生息するようになりました。これらの動物は俊敏でそれまでの狩猟具では捕らえにくいものです。その点、飛び道具の弓矢は、俊敏な小動物を狩るのに適していたのでした。このように環境の変化は石器の種類に変化をもたらしました。そして、それは石器の変化だけでなく、人々の生活全体に七変化をもたらしたのです。



2. 縄文時代の石器

ここでは、大野城市出土の縄文時代の石器を紹介します。縄文時代の遺跡は、大野城市からも発見されています。それは、乙金古墳群・釜蓋原遺跡・雉子ヶ尾遺跡・仲島北遺跡・牛頸塚原遺跡群です。中でも牛頸塚原遺跡群では縄文時代の住居跡が出土して注目されます。

石鏃（矢じり）

石製の矢じりで、矢の先端に装着して使用します。大きさや形は様々ですが、基本的に三角形をしています。表の写真では下が安山岩製、上が黒曜石製の石鏃です。その他にも色々な石材が使われますが、大野城市ではこれらの他にチャート製の石鏃が出土しています。

石匙（万能ナイフ）①②③

つまみ状の突起がついた石器で、石の匙のように見えるためその名がつけました。しかし、石匙は匙ではなく、肉を切ったり木を削るのに使用するナイフであると考えられています。つまみ状の突起は、そこに紐をかけて携帯するためのものです。

尖頭器（槍先）④⑤

両端を尖らせた細長い石器で、柄の先端に装着して槍として使用するものです。写真の2点は、ほぼ半ばで折れています。

打製石斧（オノ）⑥⑦

石製の斧で、穴を掘ったり木を伐採したりする道具と考えられています。

スクレイパー⑧⑨⑩⑪

石器の周辺に細やかな加工を施した石器で、動物の皮を剥がしたりなめしたりするのに使われました。

石錐（ドリル）⑫

柄に装着して穿孔をする道具、ドリルとして使われたものです。